

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

令和4年度 埼玉県医師会 臨床検査精度管理調査試料の発送作業に参加して

令和4年埼玉県医師会臨床検査精度管理調査試料の発送作業が令和4年9月10日(土)に行われました。

スタッフとして参加された会員の方の感想を掲載します。

埼玉医科大学総合医療センター
大塚 聖也

令和4年度埼玉県医師会臨床検査精度管理調査試料の発送作業に今回初めて参加しました。各研究班の班員が横並びになり参加施設ごとに必要な試料を箱に詰めていく作業はまるで自分たちが分注機になったような気持ちでした。およそ400施設の梱包を各班員で不備がないよう確認しながら行い、緊張感あふれる作業でした。日々のルーチン業務でこれ以上の検体数を正確に捌いている分注機様には感謝です。今までは試料を受け取る側でしたが、送る側になり準備の大変さを感じました。精度管理調査は設問作成から精度管理試料の準備、梱包作業まで多くの方や時間をかけて成り立っているのだと知ることができ、貴重な経験になりました。

また、私は今年度より研究班に入り、これまで会議や研修会など研究班の活動はZoomで行われていたため、初めて直接お会いする班員の方もいました。初対面でしたが優しく教えていただき、改めての対面の良さを感じることができました。いつになるか分かりませんが、班員の皆様と対面で活動できるようになる日が楽しみです。

最後になりますが、梱包および発送作業に参加されました理事、各研究班、その他関係者の皆様、本当にお疲れ様でした。

埼玉医科大学総合医療センター
渡邊 剛

令和4年9月10日土曜日晚夏の快晴のもと、令和4年度埼玉県医師会臨床検査精度管理調査の試料の梱包及び発送作業に初めて参加しました。新型コロナウイルス感染対策として、入口での体温測定とアルコール手指消毒後の受付、マスク・フェイスシールドの着用し各研究班試料の下準備を行いました。

定刻になると山口精度管理委員長から梱包の流れや作業の注意点などの説明があり、いよいよ梱包作業が開始されました。

梱包作業は各研究班流れ作業で行い、私の担当する血清部門では各研究班事前に用意してある登録施設への配布リストを確認しながらおおよそ100施設への試料梱包を行いました。最初は慣れない作業で多少戸惑ってしまいましたが、同じ班員の方に指導していただきながら程よい緊張感を保ちつつ梱包作業は終了しました。そして発送準備も皆で協力しながら問題なく作業が終了しました。

今回、初めて精度管理試料を準備する立場を経験させていただき、埼玉県臨床検査技師会の理事の方々や各研究班の精度管理担当の方々などの日頃の努力があり本事業が成立することを肌身に感じることができ貴重な経験となりました。

最後になりますが、梱包・発送作業に参加されました理事・研究班の皆様、その他関係者の皆様、本当にありがとうございました。



第50回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催日：2022年12月4日(日)
会場：大宮ソニックシティ
テーマ：伝統と革新 ～知・技・験の伝承～
サブテーマ：50回だヨ！全員集合～



運営部を担当して

第50回埼玉県医学検査学会
運営部 渡邊 剛

第50回埼玉県医学検査学会・運営部を担当しています埼玉医科大学総合医療センターの渡邊剛と申します。学会当日まで残すところ2ヶ月余りとなりました。運営部は当日の学会運用がスムーズに行えるよう、ブースや会場の設定、設備品等の計画・下準備などを主に行っています。初めて学会運営という立場を経験させていただき、これまで参加した学会が滞りなく行っていたのは、学会実行委員の涙ぐましい努力があったのだな・・・と痛感しております。

今学会の学会企画講演は2講演となっております。まず、安藤恭代先生の「しくじり先生～やらずに後悔しないために～」では、検査業務に関する身近なテーマから先生の実体験を交えお話していただきます。若手技師さんには是非おすすめしたい内容です！

もう一つの学会企画講演は中條武志先生の「ヒューマンエラーによるトラブル・事故を防ぐ」で

す。エラー防止の基本的な考え方やエラー防止にチームで取り組む場合の基本的な進め方についてお話しさせていただきます。こちらも検査業務に限らず全ての業務で重要なトピックとなっています。

また、学会の事前参加登録期間は2022年10月1日から11月20日となっております。事前参加登録方法の詳細は、学会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

最後に、当日皆様が「参加して良かったな」と感じてもらえるよう学会実行委員一同着々と準備を進めています。多くの方のご参加をお待ちしております！

発表用スライドデータの送付方法について

第50回埼玉県医学検査学会

学術部 南雲 涼太

7月29日にて演題・抄録登録は終了となりました。多くの演題登録をいただきまして、あらためて御礼申し上げます。今回の埼玉県医学検査学会では「デジタルポスター形式」と「スライド投影形式」2種類の発表形式となっております。デジタルポスター形式の発表では、発表時間終了後、その場に5分間待機していただき参加者と意見交換をお願いいたします。発表形式の詳細は埼臨技だより9月号もしくは学会HPをご参照ください。また、ご自身の発表形式については演者に送付されるメールにてご確認ください。

今回はスライドデータの送付方法についてご案内いたします。

【スライドデータ送付方法】

発表用スライドデータ（Microsoft PowerPointで作成）は原則E-mail（以下メール）での送付となります。ただし、ファイル容量が大きく添付が困難な場合は下記連絡先へお問い合わせください。

《送付方法》

1) 1演題につきメール1通に添付し送信してください。

2) メールの件名を「演題番号-氏名」としてください。

例) 生-1-埼玉 太郎

演題番号は、演者へのメールもしくは第50回埼玉県医学検査学会HPにて、「会場別演題発表タイムテーブル」をご確認ください。

3) 本文には何も記載しないでください。

4) 添付するファイル名はメールの件名と同じく「演題番号-氏名」としてください。

5) 送付いただいたメールのデータは会期後、実行委員会にて責任をもって消去いたします。

《送付期限》

令和4年10月28日(金)～11月4日(金)

※複数回送付いただきましても、差し替えはできませんのでご注意ください。

※スライドデータの送付から1週間以内に受付確認のメールを送信いたします。送付から1週間を過ぎても連絡のない場合は、下記までお問い合わせください。

《送付先・お問い合わせ先》

学術部 廣瀬 良磨（浦和医師会メディカルセンター）

E-mail : r-hirose@urwmed.com

研究班研修会報告

テーマ 寄生虫学における各種試験対策

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：2022年7月27日 18時30分～20時00分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講師：山本 徳栄（国立感染症研究所 寄生動物部 客員研究員）

参加人数：会員52名

出席した研究班班員：菊地孝司 鈴木由美子 田崎恵 富井貴之

研修内容の概要・感想など

寄生虫学における各種試験対策として、山本徳栄氏により二級臨床検査士試験対策を中心に講演が行われた。二級試験の微生物学のうち、寄生虫関連の問題はごく一部ではあるが、一定の正答率が必要なため受験者には効率的な試験対策が求められる。今回の研修会は、寄生虫関連の過去の二級試験問題を振り返りながら、それらに解説を加える形式で進められた。寄生虫の虫体や虫卵を始めとした多くの画像を使用しながら大変丁寧な解説で、非常に参考となる内容だった。演題名が試験対策であったため、寄生虫検査の初心者の方々の参加が少なかった可能性があるが、新人教育にも使用できるような大変わかりやすい講演だった。

山本氏によると、寄生虫関連の二級試験対策のポイントとしては、過去問題を中心に勉強することが効果的とのことだった。本研修会の内容が最高の試験対策になったと思われ、参加者の満足度の高い研修会になったのではと実感できた研修会であった。

山本氏の寄生虫検査の経験は国内でもトップレベルであり、その知識と手技を後進に伝えるために、今後も定期的に寄生虫関連の研修会を企画していきたい。

（文責：菊地孝司）

テーマ 一般検査と自動化。パート②

主催 一般検査研究班

実施日時：2022年7月29日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講演 1：尿沈渣の自動化！

講師：藤村 和夫（埼玉県済生会川口総合病院）

講演 2：尿沈渣の精度管理方法

講師：室谷 明子（埼玉医科大学国際医療センター）

参加人数：会員90名

出席した研究班班員：藤村和夫 室谷明子 柿沼智史 渡邊裕樹 小針奈穂美 中川禎己

松本実華 織田喜子

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は「一般検査と自動化。パート②」のテーマのもと藤村氏と室谷氏を講師にWebにて開催した。

講演1では藤村氏より尿中有形成成分分析装置の測定原理の違いや性能の比較について講演があった。尿中有形成成分分析装置は測定原理の違いによって、フローサイトメトリー方式と画像処理方式に分けられる。画像処理方式はさらにフロー方式とスライド方式に細分化される。

フローサイトメトリー方式は前方散乱光と側方散乱光から大きさや内部構造などの違いによって細胞や成分を鑑別している。少量検体の測定が可能で、RBCインフォメーションやBACTインフォメーション、Atyp.Cなど多種多様な情報が入手可能であり、これらの情報を基に臨床的に付加価値のある尿沈渣検査が可能になることがフローサイトメトリー方式の大きな利点とのことだった。

画像処理方式は尿中有形成分を撮像し、パターン認識によって細胞や成分を鑑別する。フロー方式では検体のキャリーオーバーを防ぐために自動洗浄が頻回に入り、検体によってはTATが長くなる恐れがある。それに対してスライド方式は1検体に1スライド使用のため、ランニングコストは掛かるが、検体のキャリーオーバーは起こさないため、1検体の測定時間は一定である。測定原理によって、性能の違いや特色が認められるが、画像処理方式はフローサイトメトリー方式に比較して円柱の検出感度が優れていること、画像が保存できるため後日の見直しや、新人技師などの教育訓練資料として使用できることが大きな利点であった。

尿中有形成成分分析装置を導入する場合は、各施設の運用に合致する装置の選定が求められ、そのためには機器の特徴を理解し、自施設の現状の問題点の把握が重要だと感じられた。

講演2では室谷氏より尿沈渣における精度管理について講演があった。多くの施設ではISO15189取得により、ISOに基づいた精度管理が行われている。精度管理は、検体採取や運搬に関する検査前プロセス、検査受付から検鏡までの検査プロセス、結果報告・結果のレビューに関する検査後プロセスとすべてのプロセスにおいて管理することが重要である。

検査前プロセスにおける精度管理の一環として、尿の攪拌操作・分注量・遠心条件は検査結果に影響を及ぼすため、SOPに記載し要員に周知、検鏡前には顕微鏡の点検や染色性の確認などの取組みが紹介された。

検査プロセスは、精度管理に精通する最も重要な過程である。尿沈渣検査の検査精度を維持、管理するためには、鏡検法に携わる要員に間差があってはならない。そのためには、評価基準者を定め、残存検体を用いた尿沈渣検査の目合わせ、フォトサーベイ資料を用いた目合わせを定期的実施する取組みが必要となる。室谷氏の施設では、尿沈渣検査での目合わせの報告で、一般検査の経験年数によって所見の取り方が異なる傾向が認められた。経験年数の少ない要員では、赤血球や顆粒円柱の報告率が低く、尿細管上皮細胞や細菌の報告率が高い傾向であった。これらの要因は経験年数によって、見落としや鑑別できなかった可能性が考えられ、鏡検技術を反映していることが考えられた。また、鑑別が難しい細胞や成分に関しては、尿沈渣ディスカッション記録簿の運用や病理検査室との連携を行い結果報告に役立っているとのことであり、結果報告の質の向上だけでなく教育にも役立つ取組みが紹介された。

尿沈渣検査は尿中有形成成分分析装置による自動化と技師による鏡検が混在する検査であり、分析装置の進化だけでなく技師の技術や知識の向上も望まれる。装置の測定原理を理解し精度管理に努め、技師の教育に取り組む重要性を再認識した。

(文責：渡邊裕樹)

テーマ 生理検査研究班CD-ROM画像サーベイ2021報告会

主催 生理検査研究班

実施日時：2022年8月13日 13時30分～15時30分

会場：鴻巣市市民活動センター 会議室A 点数：専門教科－20点

報告1：心電図

講師：工藤 淳子（北里大学メディカルセンター）

：南雲 涼太（埼玉県済生会川口総合病院）

報告 2：肺機能

講師：武藤 由里子（医療生協さいたま生活協同組合 埼玉協同病院）
家城 正和（地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立がんセンター）

報告 3：脳波

講師：武藤 由里子（医療生協さいたま生活協同組合 埼玉協同病院）

報告 4：心エコー

講師：早川 勇樹（自治医科大学附属さいたま医療センター）

報告 5：CAVI・血管エコー

講師：野村 和弘（埼玉医科大学病院）

報告 6：乳腺エコー

講師：横尾 愛（川口市立医療センター）

報告 7：腹部エコー

講師：小宮山 英幸（医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院）

参加人数：会員22名

出席した研究班班員：南雲涼太 家城正和 工藤淳子 武藤由里子 野村和弘 小宮山英幸
森充生 横尾愛

研修内容の概要・感想など

研修会当日は、台風が本州上陸する悪天候となってしまった。台風による交通障害発生の可能性を考慮し、当日朝、事前参加登録者全員に研修会開催も自身の判断による任意参加を推奨とし、欠席されても解説版CD-ROM送付希望連絡があれば送付する、といった内容のお知らせメールを一斉送信した。講師を担当する生理検査研究班員にも、来場困難であれば無理をせず自身の判断を優先するよう連絡を行い、安全に配慮したうえで研修会を開催した。CD-ROM送付のお知らせメールにもかかわらず数名の欠席者にとどまったことは本企画への高い関心がうかがえた。天候を考慮し早めに会を進行したが、参加された皆様は熱心に聴講されていた。

今回、サーベイの中で正答率が低かった脳波の設問12と乳腺超音波の設問17は教育問題とする旨を報告した。また、血管超音波の設問19についても正答率が低いため参考問題とすると研修会場で報告したが、再検討の結果不適切問題に変更した。詳細はHP上に掲載したので確認していただきたい。

研修会は大きな交通障害が発生する前に終了することができた。今回のサーベイ報告会の解説内容が今後の日常業務の一助となれば幸いである。

（文責：横尾愛）

テーマ 2022年 認定試験直前!! 細胞診セルフチェック 第1弾

主催 細胞検査研究班

実施日時：2022年8月18日 18時00分～19時30分

会場：Web開催 点数：専門教科ー20点

講演 1：婦人科領域（子宮頸部）

講師：蔵光 優理香（医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院）

講演 2：婦人科領域（子宮体部・卵巣）

講師：加藤 智美（埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科）

講演 3：乳腺・甲状腺・唾液腺領域

講師：小川 弘美（社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院）

参加人数：会員186名

出席した研究班班員：鶴岡慎悟 船津靖亮 急式政志 猪山和美 野本伊織 稲山拓司
並木幸子

研修内容の概要・感想など

子宮頸部・子宮体部・卵巣・乳腺・甲状腺・唾液腺の各領域から、計30問を設問形式で細胞像写真を提示した。講師は担当した各分野の解答および解説を行った。

子宮頸部領域は、蔵光氏より解説が行われた。子宮頸部の炎症性病変からSIL、癌腫まで幅広く網羅された症例が提示され、扁平上皮病変と腺上皮病変の判別ポイントや腺系病変の所見の取り方が詳しく説明された。

子宮体部と卵巣の領域は、加藤氏より解説が行われた。設問は各周期の正常内膜細胞像から、境界病変、上皮性腫瘍、間葉性腫瘍、卵巣腫瘍が提示され、細胞像の詳細な所見と判別の要点、組織型の概要が解説された。

乳腺、甲状腺、唾液腺の領域は小川氏が解説を担当した。各領域でよく出題される組織型を抽出して提示し、類似する組織型との比較と鑑別点を軸に説明を行った。

研修会全体を通して、良性から悪性まで幅広く典型例が提示され、これから試験を受ける臨床検査技師のみならず細胞検査士有資格者にも実りのある内容であった。

(文責：小川弘美)

テーマ **自動血球分析装置の特性 part2 最新トピックも併せて**

主催 血液検査研究班

実施日時：2022年8月19日 19時00分～20時30分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講演 1：UniCel DxH 900シリーズ コールターセルラーアナリシスシステムの特性

講師：滝上 能久（ベックマン・コールター株式会社）

講演 2：血液学的検査における血液分析装置のポジショニングと次ステージ

講師：池田 尚隆（シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社）

参加人数：会員42名 賛助会員9名

出席した研究班班員：中山智史 堀口大介 堀内雄太 澁川絵美 加藤鉄平 島田崇史
吉澤悟 石田沙妃

研修内容の概要・感想など

前回の研修会に続き、両講演ともに自動血球分析装置における基本的な測定原理、検査機器ごとの特性とそれを用いた応用についての講演であった。自動血球分析装置の特性part 1、2と計4社の分析装置について講演があったが、各社少しずつ違いがあり、その差異や特性を理解することが大切であると感じた。研修会では特定の疾患に関する知識や検査方法を学ぶ機会が多いように思うが、用手法ではなく、自動化されている機器の検査方法について学ぶことによって、そこから得られた検査値をしっかりと理解して臨床に提供することができるため大変重要であると感じた。今回の講演は自動血球分析装置についてであったが、血液分野だけではなく自身に関わる全ての分野に関して最新の情報を取り入れながら研鑽していかなければならないと改めて考えるものであった。

(文責：加藤鉄平)

テーマ **HLAって何？ わかっているようでわかっていない。
そんなあなたに。明日からの自信へ！
HLAについて ～ 輸血医療におけるHLA検査について ～**

主催 輸血検査研究班

実施日時：2022年8月25日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講 師：小林 洋紀（関東甲信越ブロック血液センター）

参加人数：会員53名

出席した研究班班員：久保居由紀子 宮澤翔子 小原佑太 比嘉絢子 岸健太 岩崎篤史
廣田渉 川内沙織

研修内容の概要・感想など

赤血球膜上にABO抗原があるように、白血球や体細胞には高度な遺伝的多型性を示すHLA抗原がある。輸血関連検査の多くは赤血球関連であるため、HLAについて苦手意識を持ってしまうことが多いのではないだろうか。

今回の研修会はHLAの基礎に加え、輸血医療におけるHLA検査を中心に、少しでもHLAについて理解を深められるような内容となっていた。その他に埼玉製造所の検査状況をわかりやすく解説したものであった。輸血治療でしばしば遭遇する血小板輸血不応（PTR）は非免疫学的不応が80%・免疫学的不応が20%とされており、その免疫学的不応の中でHLA抗体によるものが90%を占めている。PTRを認めた場合、補正血小板増加数（CCI）を用いて輸血効果の評価を行い、免疫学的機序であった場合は赤十字血液センターへ抗血小板抗体検査を依頼する。その後、HLA抗体が検出された場合のみHLA適合血小板（PC-HLA）の適応となる。PC-HLAの供給には検査から登録ドナーへ献血依頼を行うなど数日を要するため、迅速な対応が必要であり、製剤投与後の輸血効果を評価することは非常に重要であると再認識できた。

埼玉製造所には、年間約300件のHLA抗体検査の依頼がされており、そのうちHLA抗体陽性率は35%程度である。今回の講演を通じてHLAの重要性、PTRへの対応、血液センターとの協力体制がイメージできたことだろう。是非、自施設の輸血効果の評価体制やマニュアル更新に生かし、より安全で迅速な輸血治療体制の構築を目指していただきたい。

（文責：小原佑太）



会員名簿使用状況等の アンケート調査について

平素より本会活動に対し、ご理解ならびにご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、埼玉県臨床検査技師会では、毎年会員名簿（CD-R）を各施設や研究班、賛助会員に配布しております。会員名簿の活用状況等を把握したいためアンケートの協力をお願いいたします。アンケートの所要時間は3分程度です。回答いただきました内容をもとに、今後の会員名簿作成に役立ててまいりますので、お忙しいところ恐れ入りますが以下のQRコードまたはURLより11月15日までにご回答ください。

以下のQRコードより回答をお願いします。



以下のリンクより回答をお願いします。

<https://questant.jp/q/8SR3BIVT>

**令和4年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第7回 理事会議事録**

日時：令和4年9月8日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：現地にて出席

(理事) 神山 松岡 猪浦 山口 濱本
長澤 松寄 阿部 網野 佐瀬
三木 塚原 伊藤(恵) 神嶋
伊藤(隆) 石井 神戸 小林
久保田 長谷川

(監事) 遠藤 細谷

Zoomにて出席

(理事) 長岡

欠席：(理事) 松尾

本日の理事会の出席者は23名であった。理事の出席者は21名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和4年8月12日～令和4年9月7日)

8月12日(金) 令和4年度第6回理事会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、
長澤、松寄、阿部、松尾、網野、
佐瀬、三木、塚原、伊藤(恵)、神
嶋、伊藤(隆)、神戸、石井、小林、
長岡、長谷川、遠藤、細谷

8月16日(火) 事務所巡回：長澤

8月18日(木) 第50回埼玉県医学検査学会実行委員会：神嶋、佐瀬、三木

8月18日(木) 第16回日本臨床検査学教育学会学術大会：塚原

8月24日(水) 日臨技予算実績WG会議：神山

8月25日(木) 日臨技表彰委員会：神山

8月25日(木) 事業部会議：

猪浦、塚原、伊藤(恵)、神嶋、
伊藤(隆)

8月29日(月) 事務所PC移設作業：神戸

9月2日(金) 日臨技定款諸規定検討委員会：
神山

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

- 8月22日(月) 埼玉県糖尿病協会へCDEL埼玉第5期生認定講習会の後援承諾の回答をした。

- 8月29日(月) 令和4年度公衆衛生事業功労者に対する厚生労働大臣表彰候補者の推薦について埼玉県に調書を提出した。

- 8月29日(月) 事務所に会員管理システム端末2台が納品された。

- 日臨技「認知症ワーキンググループ」よりの認知症予防啓発活動の実施として技師会HPで対応した。

- 日臨技から各自治体より新型コロナ検査検体採取の要請状況について調査があった。埼玉県からは要請がなかったと回答した。

- 9月7日(水)、埼玉県より当会が推薦した以下の4名の会員が埼玉県公衆衛生事業功労者表彰の決定通知が送付された。

渡邊 俊宏氏 (株式会社アムル
上尾中央臨床検査研究所)

阿保 一茂氏 (さいたま赤十字病院)

笹野 勝年氏 (熊谷総合病院)

菊池 裕子氏 (上尾中央医科グループ
上尾中央総合病院)

2 総務部

- 8月30日(火) 令和4年度会員名簿CD-ROM版が納品された。

- 9月11日(日) タスクシフト指定講習会(埼玉県009)を女子栄養大学で開催予定。

- 9月15日(木) 埼臨技だより520号発行予定

- タスクシフト講習会の開催について参加者が集まらないため、しばらくの間ひと月おきに開催とし、タスクシフト指定講習会(埼玉県010)を11月20日に国際医療専門学校で開催予定とする。

3 事業部

- 8月18日(木) 第16回日本臨床検査学教育学会学術大会のシンポジウムに塚原晃部長が参加した。(別紙資料1)

- 8月25日(木) 事業部会議を開催した。(別紙資料2)

- 8月26日(金) 蕨市保健センターよりわらび健康の開催中止の連絡があった。

- 10月15日(土) 臨床検査技師養成校連絡協議会 会議開催予定

4 学術部

- 8月10日(水) 大宮ソニックシティに保管していた研修会用ノートPCとプロジェクターを回収し、埼臨技事務所に返却した。

- 9月4日(日) 生涯教育研修プログラム10月・11月分の行事登録(日臨技システム)完了。

5 精度保証部 特になし

6 会計部

- 令和4年度正会員費26名130,000円、入金金23名23,000円、再入会金3名3,000円、合計156,000円の入金があった。

- 日臨技より生涯教育推進研修会助成金50,000円の入金があった。

- 日臨技より全国「検査と健康展」助成金、500,000円の入金があった。

- 4) NEC ネットエスアイ(株)へZoomライセンス更新料165,000円を支払った。
 - 5) メディア・プロモーション・サービス(株)へ会員名簿(CD-ROM)300枚の作成費126,000円を支払った。
 - 6) エッチ・アンド・ティーへ会員管理システムPC2台分396,000円を支払った。
 - 7) 石井印刷に埼臨技だより第518号印刷代122,760円、封筒代60,500円、合計183,260円を支払った。
 - 8) Office365更新料13,794円を支払った。
 - 9) 会員管理システムPC更新に伴い、動産保険の追加解約を行い差額保険料960円を支払った。
- 7 精度管理委員会**
- 1) 埼玉県医師会臨床検査精度管理調査試料、9月12日(月)各施設に到着予定。
- 8 一都八県会長会議** 特になし
- 9 日臨技関甲信支部**
- 1) 2022年度関甲信・首都圏支部医学検査学会(第58回)が10月1日、2日で栃木県総合文化センターで開催予定。
- 10 日臨技** 特になし
- 11 第50回埼玉県医学検査学会**
- 1) 8月18日(木)第11回学会実行委員会を開催した。(別紙資料3-1.2)

III. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和4年度分)
令和4年9月1日現在
会員数 3,466名[令和3年度会員数3,329名]
(新入会員 236名)
賛助会員 70社[令和3年度 76社]
承認された。

2 総務部

- 1) 会員名簿使用状況アンケートについて
(別紙資料4)
資料の内容で実施することの承認をいただきたい。

上記の件について、阿部健一郎総務部長より発言があり、審議の結果、承認された。

3 事業部

特になし

4 学術部

- 1) 病理研究班研修会の変更について
(別紙資料5)

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

7 精度管理委員会

特になし

8 第50回埼玉県医学検査学会

- 1) 上申事項(参加者の生涯教育登録方法、HP委員より記録係の派遣、一般演題座長)について

上記の件について、三木隆治学会担当理事より発言があり、審議の結果、承認された。

IV. 議題

1 事務局

特になし

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

特になし

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

秋といえば、和栗モンブランがすぐ浮かぶ私は、食欲の秋なのでしょう。皆さんは、秋というところのどのようなものが思い浮かぶでしょうか。食欲以外にもスポーツや芸術、読書などがあります。もちろん、先輩技師にとっては、後輩技師がやっと育ってきて実りの秋と答える方もいると思います。

気が付けば、私のおなかも育ち大きくなってしまいました。先日山登りにレインウェアを購入しようと思ったら、サイズがないなんてことに。秋は魅力的な食べ物が多く存在しますが、今年は、食欲の秋ではなく、さまざまな分野の小説や資料を読み、頭脳をメタボにしたいと思っています。

学会で痩せた私を見つけていただけるよう頑張ります。

(網野 記)

